

オープンプラン1年生 算数
「くりあがりのある たしざん」
～どうやって けいさんするのか？～

「 $8+6=14$ 」のように
答えがわかることだけが
算数の愉しさでは ありません。

1年生の子ども達には、
 $8+6=14$ でも、
「様々な考え方があることに
気がついてほしい。」
そして、
「多様な考え方を発見することを
愉しんでほしい。」
と思い授業を考えていきました。

「くりあがりのあるたしざん」の最初の授業です。

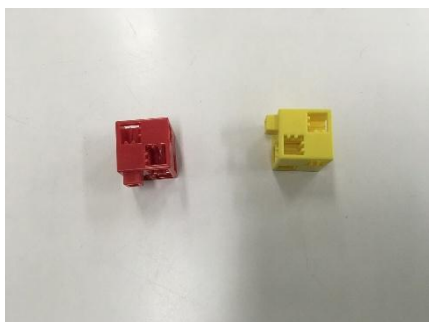
「はじめ、バスに8人 のっていました。
つぎの バスでいて 6人 のってきました。
バスには ぜんぶで なん人 のっていますか。」

子ども達は、
「たしざんのもんだいだ！」
「 $8+6$ だ！」
とすぐに式はわかりました。

「どうやってけいさんするんだろう。」
「10より大きくなるなあ・・・。」
という声も聞こえてきました。

そこで・・・

このブロックを使って考えました。



ブロックで $8+6$ を表すとこのようになります。



「どうしたら、全部で何人なのか
わかりやすくなるかな？」
と質問する前にはもう、
何人かの人はブロックを動かし始めました。

そして、
「できた!」「わかった! 14だ!」と
嬉しそうな表情の子ども達。

発表してもらおうと、



「6から8に2こあげればいいんだよ!」
発表が終わるとすかさず別の子が
「ほかにもやりかたがある!」



「8から6に4あげる!」

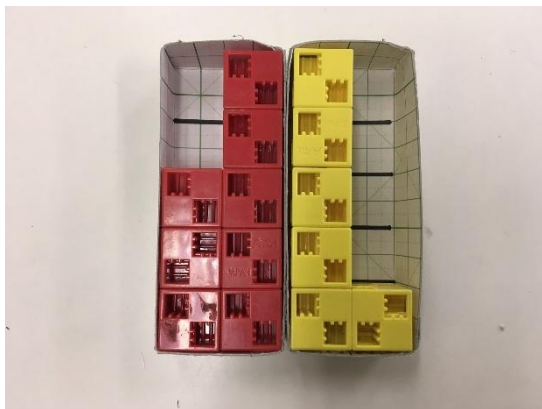
「ああ、さっきのとは はんたいだね。」
と反応する周りの子ども達。

どちらも共通するのは、
「10をつくる！」
ということです。

そのことを子ども達と確認すると・・・

一人の子が

「ほかにも 10をつくるほうほうがあるよ！」
と言って、このようにしました。



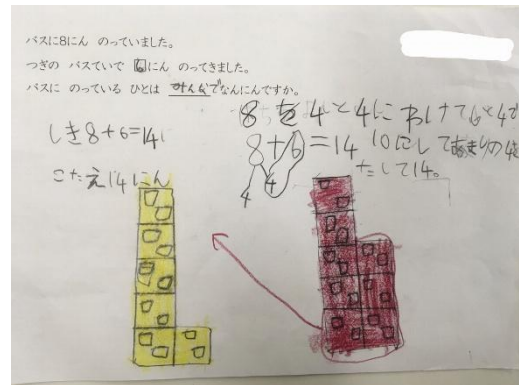
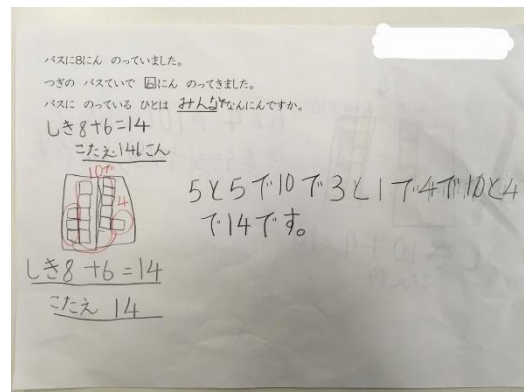
すると、周りの子ども達が、
「あ、わかった！」
続々と嬉しそうな顔を見せてくれました。
どんなことがわかったか聞いてみると、



「まんなかに5と5で10があって、
あまった3と1で4になって、
10と4で14。」
ということを説明してくれました。

3つ考え方のうち
気に入った考え方1つを

それぞれが紙にまとめました。



子ども達が自分達の方で発見し、考えた方法です。
一生懸命に書く姿が見られました。

誰かの話を聞いて、8+6の計算の仕方を
わかったつもりになるのではなく、
具体物を使って自分で思考する。
自分の「わかった！」を具体物を使って説明する。

これらの具体操作活動により、
子ども達一人ひとりから
「できた！わかった！おもしろい！」
が生まれてきます。

これからも
子ども達と一緒に
算数を愉しんでいきたいと思ひます。

